

「砂防遺産シンポジウム 2017－砂防文化をつないでいこう－」 参加レポート

◆概要

会場 アカタン砂防エコミュージアム（福井県南越前町古木リトリートたくら）

趣旨 古くは江戸期につくられた砂留をはじめとする歴史的砂防施設は、全国に点在し、今も機能を果たし続けています。そして、先人たちが体験した土砂災害の記憶、自然と調和した珍しく美しい造形の砂防えん堤など地域の砂防遺産として親しまれ保存・活用されています。

この度、昨年広島県福山市で開催された「全国砂留シンポジウム」を引継ぎ、アカタン・高倉砂防会場で開催することになりました。全国の砂防遺産の保存と活用活動を行っている地域の団体に呼び掛け、地域固有の砂防文化を交流し合い、未来につないでいく催しです。

主催 田倉川と暮らしの会・高倉谷川砂防えん堤の会

後援 南越前町・福井県・福井県砂防ボランティア協会・リトリートたくら・日野川流域交流会・
NPO 法人土砂災害防止広報センター（SPC）

協力 一般財団法人砂防フロンティア整備推進機構（SFF）・一般社団法人環境文化研究所（ECRI）

助成 砂防ボランティア基金

◆プログラム

10月21日（土）砂防ハイクと交流会

- 13:40 開会 歓迎挨拶 南越前町長 岩倉光弘氏
14:00 ★SABO オンサイト交流 みんなで現地を観る。アカタン砂防
16:30 視察に替えて 高倉砂防のスライド説明（道路路肩の崩れによる現場割愛）
16:45 ★SABO 講座「欧州の砂防遺産紀行」西本晴男教授（筑波大学大学院）
17:30 休憩
18:00 ★SABO ナイト 住民と砂防仲間の気軽な交流会
20:00 閉会 宿泊 リトリートたくらコテージ

10月22日（日）シンポジウム 砂防文化をつないでいこう

- 9:00 開会
ファシリテーター 田中謙次氏（ECRI）
★歴史的砂防施設の背景 話題提供 蒲原潤一氏（SFF）
9:30 ★活動団体の発表
11:00 ★質疑応答 意見交換など
11:50 閉会

*ホームページ情報

環境文化研究所 <http://www.geology.co.jp/weblog/kankyo/2934>

田倉川と暮らしの会 <http://www.geology.co.jp/kankyo/takura/takurahome.html>

◆10月21日 ◆会場・受付



室内会場となったリトリートたくら



ホールにて受付のようす 参加登録者は79名



資料展示の状況（佐分利川資料）



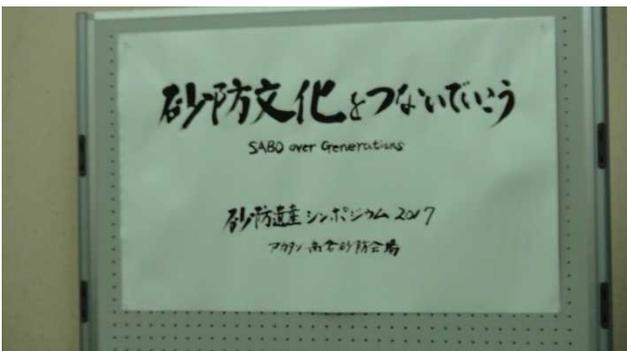
（別所砂留の写真等）



配布資料（主催）



配布資料（参加団体）



タイトルボード



開会を待つ参加者（研修室にて）

◆開会



開会挨拶

伊藤喜右工門会長（アカタン）と伊藤武男会長（コウクラ）



歓迎挨拶

南越前町長（代理）

◆SABO オンサイト交流 会場：アカタン砂防

*併せて予定された高倉砂防は道路路肩の崩れにより室内説明に変更されました



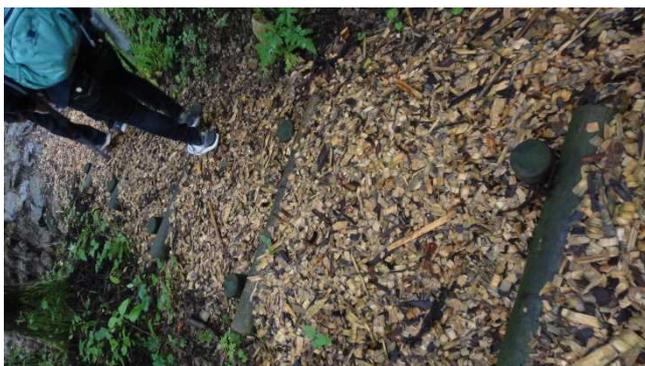
マイクロバス2台でリトリート前を出発



1号車は喜右工門（きよもん）会長がガイド

<きよもん会長のお話からのメモ 9号堰堤付近にて>

- ・平成8年に赤谷川に石積み堰堤があることがわかり、皆で見つけようということになった。堰堤は草木に覆われていたものを5年ほどかけて掘り出した。専門家の先生や関係者に見てもらい、その価値を調べていただいた。変わった工法などが使われていることなどがわかり、文化財に登録された。
- ・現場入口の看板は文化財になった時に福井県で立てたもの。
- ・9号堰堤の上の田んぼ2枚は、以前ドブの水たまりで現在よりも2mほど低く、水の流れはあっちへ行ったりこっちへ行ったりしていた。子供の頃、ザリガニや亀を捕まえて遊んでいた。昭和40年代の河川整備、47、8年の土地改良事業によって現在のような田んぼになった。
- ・今でも「猪鹿蝶」はいつでも出る。ニホンジカが田んぼを荒らす。猿も出る。鳥獣害対策が追いつかない。



整備された散策路は木材チップでふかふか



奥の東（7号）堰堤の見学。雨も止んだ



松ヶ端（6号）堰堤の見学



使われた大きな石（最大 1.8m）を間近に見る



全員で記念撮影して折り返し



最後に8号堰堤（土堰堤）を見学

<きよもん会長のお話からのメモ 8号堰堤にて>

- ・土の堰堤（8号・9号）は大勢の女性と子供達で築いた。完成に7年を要した。水通しを固い岩盤に持っていた工夫により百何十年経っても傷みはない。
- ・文化財になってから県で遊歩道が造られ、チップなどを撒いている。毎年6月第3日曜日に県・町・地元で清掃保全活動を行い、見学者がいつ来ても見られるようにしている。しかし、奥の方はすぐに草ボウボウになり整備の手が届きにくい。我々も年をとり、後継者が入らないのが悩み。

<奥の東（7号）堰堤にて>

- ・7号堰堤の石の積み方は角が丸くなめらかな形になっているのが特徴。水通しに向かって勾配がつけられている。この石積み的美しさは現代の石工にはできない技ではないかと思う。内部には玉石が込められていて、へビの巣になっている。マムシは退治しているのでアオダイショウ。材料の石は当時の土砂崩れの中から集めたとされる。石積みの上を超えて水が流れたことは一度もない。
- ・流木災害はここでは発生していない。炭焼きの人が入って山の手入れをしていたためと考えられる。
- ・子供の頃は堰堤があることもわからなかった。平成6年頃には大きな木が茂っていた。

<松ヶ端（6号）堰堤にて>

- ・松ヶ端堰堤は7号堰堤と異なり、石積みの角が直線的であることが特徴。
- ・積んだ石が一番大きく、見ごたえがある。石は中央部が大きく（最大径 1.8m）岸の方に向かって小さくなっている。水圧などに配慮された構造ではないかと思われる。

以上、現地メモより

<研修室にて>



室内にて高倉川の歴史遺産を説明する伊藤武男会長

・先日の雨で道路が欠壊し、参加者の安全を第一に考えて、高倉谷川の見学は中止とした。2.5mの巨石積みを見てもらいたかったので、とても残念。

・高倉谷川は明治28年の豪雨で田畑が全滅、明治33年に福井県の砂防計画により工事に着手。当時福井県には専門の技師がおらず、岐阜県から大屋卯吉郎技師が招かれ、主任として砂防堰堤の建設を行った。(記念碑銘)

・平成17年に「高倉谷川砂防堰堤の会」が発足した。現在の会員は11名。今後も貴重な歴史遺産を守っていききたい。

- ・12基の石積み堰堤の中で、西高倉、谷中、立成1号の3堰堤につき、特色などを写真で紹介する。
- ・西高倉堰堤：最下流の堰堤。記念碑があり、大屋卯吉郎と6名の名前が刻まれている。
- ・谷中堰堤：水通しには大きな石、縁には小さい石が使われている、水みちが3本になるように造られており、損傷しない工夫と考えられる。それが大屋技師の積み方の特色。
- ・立成1号：特に見て欲しかった堰堤で、水みちの石の積み方は特に大屋技師らしい工夫がされている。

◆SABO 講座「欧州の砂防遺産紀行」



福井県ボランティア会長より講師の紹介

講師の西本晴男教授



<講話の概要>

- ・日本の初期の砂防の話を導入に、ヨーロッパの砂防遺産について各地を歩き現況を調査して分かったことなどが撮影写真とともに披露紹介された。

◆10月22日 ◆シンポジウム「砂防文化をつないでいこう」



ファシリテーターは田中謙次氏



蒲原潤一氏による話題提供「歴史的砂防施設の背景」

＜蒲原氏のお話からのメモ＞

- ・今年7月の九州北部豪雨では多くの溪流で土石流が発生し、大きな災害となった。土石流は現象が特殊で、突然堰を切ったように流下し非常に危険である。（南木曾梨沢の土石流動画が紹介された）
- ・地すべりなどによる河道閉とその決壊も世界の各地で災害を起こしている。（インドネシア、アンボン島の映像が紹介された）
- ・アカタン砂防の空石積みの堰堤は、コンクリートが使えない時代に技術者の工夫によって自然の力に耐えて下流を守ってきた貴重な遺産である。
- ・日野川の水源地は明治24年の濃尾地震で震度5の揺れがあったとされ、当地域で4年ほど後に発生した土着災害と関係がある可能性があり、今後の専門家の調査を待ちたい。

●発表

[1]広島県 堂々川砂留群

生態系を活用した保存と防災活動

土肥 徳之（堂々川ホテル同好会事務局長）

- ・砂防の専門家ではなく市民として、遺産をいかにつなぐか、を考えて活動している。
- ・かつて砂留付近にゴミの不法投棄が多く、ポイ捨てのタバコの火による火災も発生していた。
- ・対策として、ホテルを飛ばし、花を植えて憩いの場所にすることを考えた。
- ・花は彼岸花が適していることがわかった。市民の手によって清掃と彼岸花の球根植栽を続けてきて、現在では18種18万本の彼岸花が咲く。
- ・1000球の球根を植える活動に参加した小学生が楽しんでくれて、ダジャレで「センキュー！」と言ってくれた時はたいへん嬉しかった。



[2]広島県 別所砂留群

住民主導の発掘活動、都市交流保存活動

光成良秀（別所砂留を守る会会長）

- ・活動の始まりは福山市立服装小学校の校歌に出てくる御旗山を探すことから。その散策路を整備していた時に古老から砂留があることを聞き、整備に着手した。
- ・2015年に選奨土木遺産に認定され、活動は2016年度土木学会「市民普請大賞グランプリ」を受賞した。（活動のようすや石積堰堤の写真が多数紹介された）



[3]長野県 牛伏川砂防

歴史・環境・健康体操「三つの学び」活動

加藤 輝和（牛伏・鉢伏友の会代表）

- ・牛伏川の荒廃地の面積は琵琶湖の 1/3 という広さでした。30年かけて国家事業として砂防が行われた。
- ・階段工の工法は現場に学んで現場で決めて進められた。
- ・明治期に日本の人口が急増し、賄うために安定した米作りが必要だった。そのための整備として牛伏の砂防が始められた。



[4]長野県 薬師沢石張水路工

砂防惣代制の課題と方向性

古林 徳文（薬師沢砂防惣代）

- ・薬師沢周辺は地すべり地で、明治 18 年に住民が砂防惣代を選出して内務省へ砂防工事を願い出た。以来、砂防惣代の制度が続いている。現在は 4 名の惣代がいる。
- ・過疎高齢化により後継者がいないことが悩み。砂防ボランティアほかの協力により石張水路の草刈りなどを行っている。



[5]富山県 立山カルデラ砂防

砂防体験学習活動

飯田 肇（立山カルデラ砂防博物館学芸課長）

- ・立山カルデラには重要文化財に登録された白岩砂防えん堤・泥谷砂防堰堤群はじめ多くの砂防施設があり、一般の立ち入りは禁止されている。そこで、当博物館では専門ガイドによる現地見学会を行っている。希望者が多く抽選方式とし、悪天気が予想されると中止となる。
- ・下流の本宮砂防えん堤も重要文化財に登録され、立山の砂防を世界遺産にしようという取り組みが進められている。



[6]福井県

県内の歴史的砂防施設の分布と紹介

深井 亮太（一般財団法人環境文化研究所）

- ・福井県の砂防の歴史は全国でも古く、砂防工事の歴史資料が多数、県に保管されている。
- ・山地に沿ってそれらの砂防施設が分布している。



[7]福井県 佐分利川砂防

歴史的砂防堰堤群の再発見

橋本 毅（川上環境保全組合）

- ・当地域は福井県の西の端に位置し、高齢化の進む山間集落。住民は歴史遺産の存在を知らなかった。
- ・今回、現地調査でやぶに埋もれた石積堰堤や土堰堤の存在を確認できたが、活動に取り組む人手が村にない。



[8]福井県 高倉谷川砂防

瀬戸防災訓練

伊藤 利憲（高倉谷川砂防堰堤の会）

- ・瀬戸集落の住民がこの会で活動している。昔は上流に集落があったが、移住して今はない。
- ・地域の災害として、土石流などの土砂災害に警戒しており、防災訓練で情報共有などを行っている。
- ・谷沿いに針葉樹の人工林が分布しており、土石流が発生した場合は、流木災害となることを懸念している。



[9]福井県 アカタン砂防

砂防エコミュージアムの継続活動

伊藤 喜右工門（田倉川と暮らしの会会長）

- ・砂防施設の清掃等の活動を年3回程度行っており、中的一年1回は県・南越前町・地元で1日かけて取り組む。非常にありがたい。
- ・大鶴目川など周辺地域を含め、砂防の野外博物館にしたい。また、水のきれいな所であり、夏場の子供たちの利用なども広げていきたいと考えている。



[10]岐阜県

歴史的砂防施設をつくるには

澤田 豊明

（NPO 法人山の自然・文化研究センター理事長）

- ・当センターは奥飛騨を中心に活動している。神通川の上流部に当たり、砂防が観光に寄り添う状況。砂防施設は生態系や景観に配慮されている。（大暗渠堰堤等を紹介）



[11]（全国）

いま改めて、我らのレシピ

覚幸 信江（NPO 法人土砂災害防止広報センター）

- ・歴史遺産地域の取り組みについてさまざまな発表があった。そこで、取り組みの進め方や地域の特色付けなどを一緒に考えてみたいと思った。
- ・全国の砂防遺産はみんなのものとも言える。関わるさまざまな人や団体で役割分担しながら活用できるように、仲間の輪を広げながら考えたい。



●質疑応答・意見交換



ファシリテーターと発表者席



質疑応答・一般参加者席のようす

＜質疑応答・意見交換から＞

Q：堂々川の活動の効果は？ A：ごみの不法投棄がなくなり、火事も起きなくなった。彼岸花の球根植えは参加のお願いしなくても問い合わせが来るようになった。

Q：中学校の参加は？ A：球根植栽や記念植樹は植えた子供が継続して見に来てくれる。看板づくりは親子で見に来るなどの効果がある。出前授業を行うとその学校が手伝いに来るようになる。将来は保全活動をやりたいという子供もあった。子供—女性—男性という、協力者に連鎖が起きる。行政からのサポとも大事。ブログから福山大学学生が参加し、交流。卒論にしたいという学生もあった。

Q：見学者の安全対策は？ A：保険をかける。危険区域の表示など。

Q：石積みの清掃の安全対策は？ A：機会があり山岳部の先生の指導を受けることができた。逆にクライミングの練習としてボランティアなどの人集めも考えられるのではないか。

学生参加者：今回は旅費の補助があったので岩手から参加することができた。通常、学生は交通費も出せない。このような会を各地でできれば学生も参加しやすいと思う。歴史遺産はカメラ女子などにも足を運んでもらえる可能性があると思う。



話題提供の蒲原氏による総評



最後に、来年のシンポジウム開催地からの予告
右はそのチラシ
(牛伏川階段工百年記念)



主催、きよもん会長からのお礼挨拶と閉会

